試作の駄作

穂村井加土

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
試作の駄作

【Ｎコード】
Ｎ０１２６Ｔ

【作者名】
穂村井加士

【あらすじ】
コンビニに行く途中……

あれは私が深夜のロープレに飽きてコンビニに行った時のこと。
夜、街灯の下にベンチがありました。
一人の男が座っています。
私が近づくと、
「お待ちしていました」
と横にずれて話し始めました。

「僕は世界の敵から世界を守るため戦っていたんですよ」
男に奢ってもらった炭酸飲料を飲みつつ、聞いていました。
男は続けます。
「幾たびも訪れる死に堪えて、説明のつかない人の身を超えた力を手にしてね。そりゃ初めは有頂天で楽しかったです、でも段々辛くなってくるんですよ」
男は感情無く軽く笑いました。
「セーブクローンが死ぬ度に、宿屋で発狂しそうになりました。経験はおろか痛みまでも同期するなんてな。どれくらい殺し殺されたのかも覚えてませんよ。行く先々で化け物扱いですし。でも途中下車は許されなかった」
男の目は虚ろで焦点は合わず、何の像も結んでいませんでした。
「世界を守るため戦った後は、用済みのゴミ扱いです。放射性廃棄物ぐらいの認識でしょう。想定はしてたけどそれが一番辛かった。何のために戦っていたのか、わかりません」
話し終えると少し休んで、
「しょうもない愚痴を聴いてくださって、ありがとうございます。そろそろエンドロールも終わりますので、僕は行きますね」
どこかへ行ってしまいました。
私も立ち上がって帰途に着きました。

街灯の下にベンチが残されました。

帰宅後、気が向かずにロープレは止めて寝ました。

（後書き）

なんかごめんなさい。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0126t/

試作の駄作

2011年10月8日23時33分発行